**Title Page - 1（論文の区分，論文題目，著者名，所属組織名，連絡著者）**

論文の区分 論文の区分をリストから選択する

論文題目（副題がある場合，日本語ではハイフン，英語では半角コロン+半角スペースで繋ぐ．センテンスケースで記述する．）

|  |  |
| --- | --- |
| JPN | 保健衛生の教育において○○○が学生の□□□へ与える影響 － 臨床指導者の視点からみた評価 |
| ENG | Impact of ○○○ on students' □□□ in health professional education: Evaluation from the perspective of clinical instructors |

著者名（姓名の間を半角スペースで区切る．英語ではFamily Nameをすべて大文字で表記．連絡著者に\*，上付きで所属番号．）

|  |  |
| --- | --- |
| JPN | 保健 春子1, 藤田 太郎2\*, POLNAREFF Jean P1,3, 保健衛 なつみ4, 育学 次郎2,3,4,  健教 三四郎2, 保衛田 秋江5, 衛生大 冬美1, 財前 五郎6, 間 黒男7 |
| ENG | Haruko HOKEN1, Taro FUJITA2\*, Jean P POLNAREFF1,3, Natsumi HOKENE4,  Jiro IKUGAKU2,3,4, Sanshiro KENKYO2, Akie HOEIDA5, Fuyumi EISEIDAI1,  Goro ZAIZEN6, Kuroo HAZAMA7 |

所属組織名（大学名や学科名などの区切りには半角スペース．必要に応じて枠を削除または追加する．）

|  |  |
| --- | --- |
| 1 | 藤田医科大学 大学院 保健学研究科 |
| Graduate School of Health Sciences, Fujita Health University |
| 2 | 藤田医科大学 保健衛生学部 看護学科 |
| Faculty of Nursing, School of Health Sciences, Fujita Health University |
| 3 | 藤田医科大学 保健衛生学部 リハビリテーション学科 |
| Faculty of Rehabilitation, School of Health Sciences, Fujita Health University |
| 4 | 国立病院機構 ○○病院 |
| National Hospital Organization ○○ Hospital |
| 5 | ○○県立総合医療センター |
| ○○ Prefectural General Medical Center |
| 6 | 浪速大学 医学部 外科学第一講座 |
| Department of Surgery I, School of Medicine, Naniwa University |
| 7 | 無所属 |
| No Affiliation |

Corresponding Author・連絡著者（大学名や学科名などの区切りには半角スペース．）

|  |  |
| --- | --- |
| 氏名 | 藤田 太郎 |
| メールアドレス | hokentaro@fujta-hu.ac.jp |
| 所属 | 藤田医科大学 保健衛生学部 看護学科 |
| 郵便番号・住所 | 〒470-1192 愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1-98 |

**Title Page - 2（要旨，キーワード，利益相反）**

要旨（「提言」・「解説」では空白にする．「背景」などの小見出しを作成したり改行したりしない．英文校正証明書が必要．）

|  |  |
| --- | --- |
| JPN  300文字 | 保健衛生の領域においては○○が重要であるとされ・・（研究背景）・・これまでの先行研究からその原因は○○であるとされてきた．しかし近年，○○であることが判明し・・（問題提起）・・○○の可能性が示唆されるようになった．そこで本研究では・・（この論文で明らかにする課題）・・を明らかにすることを目的とした．健常若年成人○人と・・（対象）・・が本研究に参加した．研究参加者は・・（主な実験内容）・・○○を行った．○○分析により，・・（主な分析内容）・・○と△を比較した．○は△に比し有意に・・（主な結果）・・であった（p < 0.05）．本研究により，○○が□□であることが明らかとなった（結果から導かれ得る結論）． |
| ENG  150 words | In the heart of the bustling city, a small park offered a peaceful retreat. Tall trees swayed gently in the breeze, their leaves whispering secrets to those who would listen. Children laughed and played, their joyful sounds echoing through the air. An old man sat on a bench, feeding breadcrumbs to the pigeons that flocked around him. Nearby, a young couple strolled hand in hand, lost in their own world. Amid the urban chaos, this green oasis provided a sanctuary for anyone seeking a moment of tranquility. Whether reading a book, enjoying a picnic, or simply observing life, visitors found solace here. The park was a reminder that even in the busiest of places, nature’s calm could always be found. This simple, serene corner of the city was a treasure cherished by all who discovered it. Every visit reinforced the park’s timeless charm, drawing people back again and again. |

キーワード（3個以上5個以内，半角セミコロン＋半角スペースで区切る．）

|  |  |
| --- | --- |
| JPN | 学習成果; デジタル教育; 生涯学習; 教育設計; 専門性 |
| ENG | Learning outcomes; Digital education; Lifelong learning; Instructional design; Professionalism |

利益相反（Conflict of Interest）（COIが無い場合にもその旨を明記する．）

|  |  |
| --- | --- |
| JPN | 第○著者は保健衛生教育学会誌の理事である． |
| ENG | The ○th author is a member of the board of directors of the Japan Society for Health Professional Education. |

**Main Text（本文，緒言～謝辞）**

**1 緒言**

本ファイルは保健衛生教育学会誌の投稿原稿のひな型（テンプレート）である．ヘッダーの「保健衛生教育学会誌 論文原稿」，フッター右のページ数表記，段組み（1段），行番号表示，および行間設定（「1行」）を変更してはならない．なお，フッター左に記載されているとおり，青文字箇所は解説または例であるので，投稿時には削除すること．

投稿原稿は，「タイトルページ」，「本文（緒言～謝辞）」，「引用文献」，「表」，「図の説明文」，「著作権（Copyright）」で構成される．本様式では本文を「緒言」から「謝辞」までとする．

投稿原稿の1～2ページをタイトルページと定義し，(1) 論文の区分，(2) 論文題目と副題，(3) 著者名，(4) 所属組織名，(5) 連絡著者情報，(6) 要旨，(7) キーワード，(8) 利益相反を記述する．原稿の3ページ目から本文を記述するとする．

本文の次のページから「引用文献」，「表」，「図の説明文」「著作権」を，それぞれページ区切りを用いて新しくしたページに作成する．

**2 論文原稿の文章・文字に関する注意点**

日本語の論文原稿は原則として「である調」で記述すること．ただし，「提言」は敬体でも常体でも構わない．執筆においては下記の**2.1**～**2.7**の基本事項に従うこと．

**2.1 文章の区切りと段落の区切り**

日本語文章の区切り符号には，句読点ではなく全角のカンマ・ピリオドを使用する．段落については，上記「緒言」のように，段落の開始時に一文字分の字下げを行い，段落と段落の間を1行空ける．段落の中で不用意に改行してはならない．

**2.2 文字フォント**

本文の文字サイズは12ポイントとし，本文中の日本語のフォントは「MS明朝」，英語は「Times New Roman」で統一する．特に，MS-wordの初期設定にある「游明朝」は使用してはならない．他の文章ファイルからコピー&ペーストした際などに規定外のフォントになることが生じるので，貼り付ける際に「テキストのみ保持」を選択してフォントが変わらない様に注意すること．図表においてはフォントを規定しないが，視認性の高いフォントを適切な文字サイズで用いること．

**2.3 記号，全角文字と半角文字**

本文，図の説明文，表の文字を問わず，英語，数字，記号には半角英数文字を使用する．アラビア数字（1，2など），記号（\*，†，§，°，°C），数式（<，±など），ギリシャ文字（α，β，γなど），ローマ数字（I，VIなど）には半角英数文字を用い，フォントを「Times New Roman」とする．

全角1文字で表示される「㎏」「㎣」「℃」「Ⅵ」などの特殊文字や記号は使用してはならない．例えば，「mm3」は，アルファベット「m」と上付きの「3」，「°C」は角度記号「°」とアルファベットの「C」，「VI」はアルファベットの「V」と「I」で表現する．

例外として，日本語文章における括弧の記号は全角の （ ） を使用すること．ただし，要旨などの英語文章では半角の ( ) を使用すること．

**2.4 文字の装飾**

原稿（修正稿の修正箇所表記を除く）の文字色は黒色のみとし，文字の装飾は原則として使用しない．具体的には，本文中の文章でアンダーラインや網掛けを使用してはならない．太字は，数式表現など特定のケース，章や節のタイトルを除き使用しない．斜体も，以下に示す特定のケースでのみ使用できる：動植物などの属名や種名，遺伝子名，ラテン語，数式中の物理量など．

**2.5 数値と単位の表記**

数値は原則としてアラビア数字で記述し3桁ごとにカンマで区切る．ただし人口や国家予算などの大きな数値を表現する際に「万」，「億」，「兆」などの漢字を使用してもよい．

単位のある数量を記述する際には必ずその単位を明記しなければならない．単位の記載法は，国際単位系（International System of Units，SI）に準拠し，例えば長さは「m」，質量は「kg」，時間は「s」（secではない）で表現する．

半角英数文字で記載される単位では，「119.6 cm」，「10.23 m/s」のように数値と単位との間に半角のスペースを入れる（実際の原稿では網掛け不要）．ただし平面角 °（度），'（分），''（秒）や，摂氏温度 °Cの場合には，「20.0°C」のように半角スペースを入れない．

**2.6 略語**

原則として一般的な単語のみ略語を使用することができる．本文中で初めて出現した際には，要旨で既出でもスペルアウトする．図表では，本文で既出でもフルスペルを加筆する．

例：客観的臨床能力試験（Objective Structured Clinical Examination，OSCE）

例：MRI（Magnetic Resonance Imaging）

**2.7 英語におけるSentence Case**

題目の英語や，引用文献の英語タイトルは，Sentence Caseで記述する．すなわち，題目・副題それぞれの冒頭の単語，固有名詞の頭文字，一般的に大文字で表現される略語のみを大文字で記載する．

**3 本文に関する注意点**

**3.1 論文の構成**

「提言」を除く論文は第1節を1. 緒言とする．原則として，「原著」・「短報」では第2節以降を2 対象と方法，3 結果，4 考察，謝辞とする．謝辞に見出し番号を振らない．「報告」・「総説」・「解説」では，第2節以降の節の名称は自由に作成してよい．「提言」では節の名称を規定しない．各節をさらに分ける必要がある場合，2.1 対象，2.1.2 健常成人，のように階層的に番号付けを行う．

**3.2 基本的な論文の構造**

「原著」・「短報」ではIMRAD形式を基本としている．1 緒言では，第1段落に研究背景，第2段落にResearch Question，最終段落に研究目的という一般的な形式を基にして記述すること．目的を達成するための方法，方法によって得られた結果，結果によって導かれる考察，という順序で構成される．また，一般的な事実や普遍的な心理を記述する際は現在形，実験・調査などの方法や結果を記述する時には過去形，など，文章の時制に注意を払うこと．

**3.3 研究倫理に関する記述**

ヒトが対象の研究では，倫理審査委員会の承認，対象者への十分な説明のうえで遂行し，その旨を明記する．動物が対象の場合も含め倫理審査に関する文章は，2. 対象と方法に記載するのが望ましい．その際に，倫理審査における承認番号などの記載が必須である．

**3.4 謝辞に関する注意点**

謝辞では，研究に協力した個人の氏名と協力内容，研究助成を受けた場合にはその助成金番号やプロジェクト名などを記載する．原則として著者の私生活を支えた組織や家族・友人は謝辞には該当しない．英文校正業者の会社名を記載してもよい．

**3.5 図表がある場合の挿入箇所**

原稿内で図表を表記させたい場所に，**＜表1挿入箇所＞**や**＜図1挿入箇所＞**と記載する．ただし，編集の都合で希望の位置に表示されない場合もある．すべての図表について「表1に示すように…」などと本文中で引用し，挿入箇所を明示しなければならない．

**4. 本文中の文献引用に関する注意点**

すべての引用文献は，論文の本文または図表で引用されなければならず，言及していない参考文献は引用文献として記載できない．

引用文献には出現順に番号を振り，半角の角括弧で囲って表示する．文献を複数引用する場合，2編の論文を引用する場合や論文番号が連続しない複数論文の場合には半角のカンマで区切る（半角スペースは入れない），3編以上の連続した番号の論文を引用する場合にはハイフンで繋ぐ．

***――原著・短報における章立て，本文中の引用方法，図表挿入箇所の例――***

**1. 緒言**

第1段落には主に研究の背景を記述する．以下例文：近年，XにはYの影響が強いことが示唆されている [1-5]．田辺ら（2015）はこのYについて「…」と述べている [4,6]．Zの要素についても多くの研究で議論され，佐藤らや鈴木らは…と結論づけているが [1,3-5,7]，一方で渡辺らは…としており [8]，見解が一致していない．

第2段落は主にResearch Questionに関する文章が基本である．また，要領にあるように，1文字の字下げを行い，段落間を1行あける必要がある．

緒言の第3段落（または最終段落）は主に研究の目的に関する文章を執筆する．

**2. 対象と方法**

**2.1 参加者**

対象では倫理審査の承認番号などを記載する．以下例文：本研究は健常成人および脳卒中患者を対象とした．すべての研究参加者に研究目的と方法について口頭および文書を用いて説明し，署名による同意を得た．本研究は…大学…倫理委員会の承認（承認番号: XXX-000）を得て，ヘルシンキ宣言に基づいて実施された．

**2.1.1 健常成人**

節を分けるときには階層的に番号付ける．以下例文：本研究では健常右手利き成人30人（45±1.6歳）が参加した．利き手はエジンバラ利き手テスト [11] で判別した．

**2.1.2 患者**

脳卒中患者10人（52±5.6歳）を対象とした．患者の基本情報を表1に示す．本研究では，患者の選定基準を…とし，除外基準を…とした．

**＜表1挿入箇所＞**

**2.2 計測方法**

**＜図1，図2挿入箇所＞**

**2.3 統計学的検討**

**3 結果**

**4 考察**

**謝辞**

***―――――――――――――――――――――――――――――***

**References（引用文献）**

1. 武田湖太郎. 痙縮の評価法: 徒手的手法と生体工学的手法. バイオメカニズム学会誌 42(4), 211-218, 2018.
2. Takeda K, Tanino G, Miyasaka H. Review of devices used in neuromuscular electrical stimulation for stroke rehabilitation. Medical Devices 10, 207-213, 2017.
3. Yuasa A, Uehara S, Sawada Y, et al. Systematic determination of muscle groups and optimal stimulation intensity for simultaneous TMS mapping of multiple muscles in the upper limb. Physiological Reports 10(23), e15527, 2022.
4. 長岡佑馬, 北俣康介, 矢代大祐, 他. 時変弾性係数を用いた他動底背屈時の足関節トルクの推定. 電気学会論文誌 D (産業応用部門誌) 142(3), 232-240, 2022.
5. 大久保街亜, 岡田謙介. 伝えるための心理統計 効果量・信頼区間・検定力, 4.5 回帰分析の信頼区間. 勁草書房. P. 139-144, 2012.
6. Purves D, Augustine GJ, Augustine G. J, et al., eds. Neuroscience 5th edition, Chapter 13 The auditory system. Sinauer Associates, Inc. P. 277-302, 2012.
7. 西条寿夫 (監), 伊佐正 (編), 浦川将 (編). リハビリテーションのためのニューロサイエンス, 2章 3 手指の機能回復を可能にする神経回路の解明 (當山峰道, 伊佐正). メジカルビュー社. P. 137-150, 2015.
8. 千野直一 (編), 椿原彰夫 (編), 園田茂 (編), 他. 脳卒中の機能評価－SIASとFIM [基礎編], 2-2 SIASの具体的評価方法. 金原出版. P. 44-67, 2012.
9. Tanioka T, Yasuhara Y, Osaka K, et al., eds. Nursing robots, Chapter II Necessary robotic features to support the physical activities and rehabilitation of the elderly (Yamazaki K, Sugawara K, Koyama S, et al.). Fukuro Shuppan. P. 19-34, 2017.
10. Grafen A (編), Hails R (編), 野間口謙太郎 (訳), 他. 一般線形モデルによる生物化学のための現代統計学, 第13章 カテゴリカル型データ. 共立出版. P. 245-268, 2007.
11. Sethi RK, Thompson LL, 白井康正 (訳). ベッドサイドの筋電図ハンドブック 第2版, 18. 筋電図検査. メディカル・サイエンス・インターナショナル. P. 123-150, 1990.
12. 首都大学東京体力標準値研究会 (編). 新・日本人の体力標準値II, III 95 脈拍数. 不味堂出版. P. 389-392, 2007.
13. 科学研究費助成事業 (科研費), https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/, [2024年9月9日アクセス].

**表（Tables）**（1ページに1つの表を作成する．本文中で表示される大きさと同じ大きさで作成する．文字サイズも適宜調整する．）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 表1. ページ幅の半分サイズで表示させる予定の表の例 | | |
| 患者No. | 年齢 [歳] | Blood Pressure [mmHg] |
| 001 | 45 | 120/80 |
| 002 | 50 | 135/88 |
| 003 | 72 | 140/110 |
| 004 | 63 | 150/95 |
| 表のタイトルは最上部，表の説明文は最下部に記述する．表の説明文では，略語のスペルアウトや，有意差を示す記号の説明などを記述する．また，実際に論文に掲載したい大きさとして，横幅をページの幅もしくはページの半分サイズで作成し，文字サイズも8pt程度で作成する．縦罫線は引かず，横罫線は原則としてタイトルの下部，見出しの下部，データの最下部のみとする． | | |

**表（Tables）**（1ページに1つの表を作成する．本文中で表示される大きさと同じ大きさで作成する．文字サイズも適宜調整する．）

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 表2. ページ幅の大きさを想定した表の例 | | | | | |
| Patient ID | Age [歳] | Sex | Blood Pressure  [mmHg] | Heart Rate  [bpm] | Cholesterol  [mg/dL] |
| P001 | 45 | M | 120/80 | 72 | 190 |
| P002 | 50 | F | 130/85 | 75 | 200 |
| P003 | 66 | M | 140/90 | 78 | 210 |
| P004 | 54 | F | 135/88 | 70 | 195 |
| P005 | 68 | F | 150/95 | 98 | 220 |
| P006 | 72 | M | 145/92 | 63 | 205 |
| M, male; F, female. | | | | | |

**図の説明文（Figure Legends）**（図ごとにそのタイトルや説明文を記述する．タイトルを含め途中で改行しない．）

図1. 年齢別，血腫量別の（a）入院時のRCPM，（b）MMSE，（c）退院時のFIM-M．箱ひげ図におけるひげの最大値は四分位範囲の1.5倍とし，外れ値を○で示す．†，‡はいずれも同じ年齢群内における血腫量グループ間の比較における有意差を示す（†p < 0.05; ‡p < 0.01）．§は同じ血腫量グループ内の年齢群間の有意差を示す（p < 0.05）．RCPM, Raven’s colored progressive matrices; MMSE, Mini-Mental State Examination; FIM-M, Functional Independence Measure motor subscale. S，M，Lはそれぞれ血腫量で区分したグループを表す（S, small <20 ML; M, medium, 20–40 mL; L, large, >40 mL）．

図2. 論文投稿プロセスにおける著者，編集委員会，査読者の相互作用とワークフロー．著者は原稿を編集委員会に提出し（a），編集委員会は査読者を割り当てて原稿を評価する（b）．査読者はフィードバックと推奨事項を編集委員会に提供し（c），編集委員会が原稿の受理または拒否の最終決定を行う（d）．著者は最終受理前に査読者のコメントに基づいて原稿を修正する必要が生じる場合がある．

図3. 1月から12月までの平均気温．1月から6月までのデータを基に将来の気温予測を行うと，12月の時点で実際の気温と大きな差が生じることがわかる（赤色矢印）．気温の回帰分析を行う際には1年を通したデータが必要である．

**Copyright**（苗字をすべて大文字で表示した筆頭著者の氏名で青字部分を書き換える．単著の場合はet alを削除する．）

© 2025 Haruko HOKEN et al. This is an open-access article distributed under the terms of the Creative Commons Attribution License (CC BY). The use, distribution or reproduction in other forums is permitted, provided the original author(s) and the copyright owner(s) are credited and that the original publication in this journal is cited, in accordance with accepted academic practice. No use, distribution or reproduction is permitted which does not comply with these terms.